

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	災害看護・国際看護	単位 1単位	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護支援活動および看護の役割について学ぶ 国や文化を超えた人々の健康に関する諸問題について学び、看護の国際組織について学ぶ			
担当講師	森田 佳奈子 教育経験:10年以上 関谷 まり 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	災害看護の基礎知識	災害の定義 災害の種類と健康被害 災害医療の特徴 災害看護と法律 災害時の情報、職種間・組織間連携 災害看護の定義・役割 災害看護の対象 災害の特徴と看護活動 災害看護場面におけるジレンマ	講義	関谷 まり	基礎分野 基礎英語 医療英語 文化社会学 心理学
	2	災害サイクルに応じた看護	災害サイクルに応じた看護活動 急性期・亜急性期、慢性期・復興期、静穏期 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア 避難所・仮設住宅における健康と生活支援	講義	関谷 まり	専門基礎分野 公衆衛生学
	3, 4	避難所設営・運営	避難所設営・運営演習	演習	関谷 まり	専門分野 看護学概論 成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V
	5	避難所における健康と生活支援における看護の役割①	避難所設営・運営演習の振り返りとまとめ 避難所・仮設住宅とは、避難所の設営と運営、避難所での健康への影響、避難所での生活支援 要配慮者の避難所生活の支援について	講義	関谷 まり	
	6	避難所における健康と生活支援における看護の役割②	避難所における看護の役割	講義(45分)	関谷 まり	
	7, 8	災害時に必要な看護技術	災害時の救護活動に必要な看護技術 事例を用いる ① トリアージ ② 応急(究明)処置 ③ 搬送・移送技術 ④ その他	演習	高西 弘美	
	9	国際看護の必要性と課題	* 国際看護とは何か? * グローバリゼーションに伴う国際看護の必要性と、現状と課題 感染症の拡大、社会格差と健康格差 在日外国人 外国人看護師 * 日本と海外での出産を通しての異文化紹介	講義	森田 佳奈子	
	10	国際保健政策 I	* プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション * ミレニアム開発目標	講義	森田 佳奈子	
	11	国際保健政策 II	* 人間の安全保障 * 途上国における健康課題 背景にある社会、文化、伝統、保健医療	講義	森田 佳奈子	
	12	保健医療分野における国際機関と日本の国際協力の現状	* 国際機関の種類と役割 * WHO(世界保健機関)の目的と活動 * 日本のODA(政府開発援助)の形態と活動状況	講義	森田 佳奈子	
	13	国際協力活動の実際 I	JICAシニア海外ボランティアの活動を通して HIV/エイズに関する状況と文化的背景	講義	森田 佳奈子	
	14	国際協力活動の実際 II	JICA専門家の活動を通して HIV/エイズに関する状況と課題、梅毒について	講義	森田 佳奈子	
	15	ボツワナの国事情とHIV/エイズ問題、シエラレオネの国事情と保健医療問題	* 現地の人たちにとって必要な国際協力とは何かをその国の社会・文化から考える * 異文化コミュニケーションで大切なこと	講義	森田 佳奈子	
	16	筆記試験		筆記試験		
	評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	医療安全	単位 1単位	看護医療事故の種類と構造を理解し、事故の危険因子を減らす方法について学ぶ			
担当講師	世古 真紀 看護師臨床経験:10年以上 佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	医療安全を学ぶことの大切さ (序章)	医療安全に関する用語の定義 人はなぜ間違いをおかすのか 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義	佐野 和美	基礎分野 情報科学 心理学 人間工学
	2	事故防止の考え方を学ぶ	医療事故と看護業務 看護事故の構造 看護事故防止の考え方	講義		専門基礎分野 保健医療論 関係法規Ⅱ
	3	診療補助業務の事故防止(Ⅰ)	業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 インシデント・アクシデント報告 事故事例の分析方法 看護業務に必要な計算方法・事例検討	講義		専門分野 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ
	4	医療安全とコミュニケーション	不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義		ヘルスアセスメント 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 成人援助論Ⅰ～Ⅴ 老年援助論Ⅰ-Ⅲ 小児援助論Ⅰ-Ⅲ 精神援助論Ⅱ・Ⅲ 地域・在宅看護概論 訪問看護技術 訪問看護の看護過程 看護の統合と実践
	5	組織的な安全管理体制への取り組み	組織としての医療安全対策 システムとしての事故防止の具体例 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応 医療安全対策の国内外の潮流 わが国の医療安全対策の取り組み	講義		
	6	療養上の世話における事故防止	療養上の世話における事故の捉え方と防止 転倒・転落事故防止 摂食中の窒息・誤嚥・異食事故防止 入浴中の事故防止	講義	世古 真紀	
	7	診療補助業務の事故防止	内服与薬業務と事故防止 経管栄養注入業務と事故防止	講義		
	8		時間帯による療養環境の違いが引き起こす事故防止	講義		
	9		チューブ管理と事故防止 自己抜去予防・滴下ミスをどう防ぐのかを考える	講義		
	10	診療補助業務の事故防止 (注射業務に用いる機器管理)	注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ関連)での事故防止	講義		
	11	診療補助業務の事故防止の実際 (注射業務に用いる機器管理)	輸注ポンプ・シリンジポンプの事故の実際	演習		
	12	看護師の労働安全衛生上の事故防止	職業感染・抗がん剤の曝露防止・放射線被曝 ラテックスアレルギー・院内暴力	講義	長友 美緒	
	13	放射線療法・化学療法時の事故防止	放射線の被ばく防止策の実施 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施	演習		
	14	業務領域をこえて共通する間違いと 発生要因(KYTトレーニング)	業務領域を超えて共通する患者間違い 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	演習	佐野 和美	
	15	KYTトレーニング後の振り返り	リフレクション	講義(45分)		
	16	終講試験	筆記試験	(45分)		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院					

教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	看護管理・看護倫理	単位 1単位	看護におけるマネジメントについて学ぶ。また医療や看護場面で起こる倫理的問題について学ぶ			
担当講師	藤尾 泰子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う					
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	看護とマネジメント	看護管理学とは 看護におけるマネジメント	講義	植田	基礎分野 マネジメント論
	2	看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重	講義	西原	哲学
	3		安全管理 チーム医療 看護業務の実践	講義	西原	専門基礎分野 保健医療論 社会福祉 I
	4	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメント 組織目標達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント	講義	西原	専門分野 I 看護学概論 看護研究
	5		施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント 情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価	講義	西原	専門分野 II 成人援助論 II 小児看護学概論 老年看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論
	6	看護を取り巻く諸制度	看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 マネジメントを考える 組織マネジメントを考える 看護組織をマネジメントする	講義	植田	統合分野 医療安全 在宅看護論
	7			講義・演習 演習	植田	
	8	生命倫理・看護倫理	ジレンマとは 倫理とは 価値・道徳・法律 生命倫理とは 生命倫理の歴史 生命倫理の4原則 看護倫理 歴史的推移 看護の倫理原則	講義	藤尾	
	9	専門職の倫理	ケアリング ケアの倫理 専門職とは 専門職としての看護 専門職の倫理綱領 保健師助産師看護師法と倫理	講義	藤尾	
	10	倫理的問題へのアプローチ1	倫理的問題へのアプローチ	講義・演習	藤尾	
	11	倫理的問題へのアプローチ	倫理的問題の事例検討(4ステップモデル) 老年期・終末期事例	演習	藤尾	
	12	倫理的問題へのアプローチ2	倫理的問題へのアプローチ	講義・演習	藤尾	
	13	倫理的問題へのアプローチ	倫理的問題の事例検討(10ステップモデル) 小児事例	演習	藤尾	
	14	現代医療における様々な 倫理的問題		講義	藤尾	
	15	看護研究と倫理		講義(45分)	藤尾	
16	終講試験			藤尾		
評価方法	看護管理:筆記試験(5割) 看護倫理:筆記試験(3割)、演習(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	看護の統合と実践	単位 1単位	これまでの看護実践を通して構築した看護に対する考え方をもとに、看護実践能力の主軸となる看護実践の技術的側面と、看護実践の問題解決の側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にできる			
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	看護の統合と実践とは	各看護学の統合、看護実践能力、メタパラダイム 臨床推論・臨床判断能力育成に必要な視点を学ぶ 推論の必要性、臨床推論のプロセス	講義	佐野 和美	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習 マネジメント論 文化社会学 哲学 教育学 専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床薬理学 関係法規Ⅰ・Ⅱ
	2	事例検討:A	事例Aに対してのアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	講義 グループワーク		
	3	A氏への問診・ケアの提供	事例Aの推論を基に実施・評価	演習 グループワーク		
	4	事例検討:B	事例Bに対してのアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	講義 グループワーク		
	5	B氏への問診・ケアの提供	事例Bの推論を基に実施・評価	演習 グループワーク		
	6	臨床現場における多重課題	臨床現場の多様さと実践能力の身につけ方 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャー ケアカンファレンス・事例シミュレーション	講義		
	7	看護業務時間管理①	臨床現場での多重課題をどう克服するか 1日のスケジュール管理	講義 グループワーク		
	8	看護スケジュールの実践①	優先度・緊急度を考えた時間管理の実践	演習		
	9	臨床現場における多職種連携	事例検討 どんな連携が必要となるのかを考える	グループワーク (45分)		
	10	多職種連携の実際	理学療法科学生との合同講義	グループワーク		
	11		職種・知識・立場・背景の違いから異なって見える対象 への合同アプローチ	グループワーク		
	12	看護業務時間管理②	複数患者の状態変化に対応した現状把握 1日のスケジュール管理	講義 グループワーク		
	13	看護スケジュールの実践②	重要な情報を見極めた看護実践	演習		
	14	シミュレーション演習	初期把握、優先順位の決定、看護実践 シミュレーション/ナースへの報告	演習		
	15	リフレクション	患者把握の振り返り / 知識、技術、態度 自己の課題の明確化 (夜間実習を含む)統合実習へ向けて	演習 講義		
16	終講試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(5割)、レポート・学習状況(5割:事例展開・発表・シミュレーション演習) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 引用文献 ・臨床判断ティーチングマップ 三浦 友里子著 医学書院					